



## 新春トップインタビュー

## 株式会社ニッポン

## 前鶴俊哉社長

今年 2 月には念願の知多工場稼働を控えるニッポン。一から工場を立ち上げるのは 40 年ぶりとなり、最新鋭の技術がふんだんに盛り込まれる。一方、米高騰の影響を受け、パスタ製品では一部休売に追い込まれる製品もあるなど、外部環境の変化で厳しい局面がみられたカテゴリーもあった。中期目標の最終年度を迎え、目標達成に邁進するとともに、知多工場建設後をも見据え、次の成長につなげると語る前鶴俊哉社長に、ニッポンのこれまでとこれからを聞いた。

（聞き手 石母田 健、まとめ 川田 岳郎）

## — 2025 年を振り返って

一年を通して、比較的堅調に推移した。昨今伸張している麺類を中心として、好調なものも多く、全体としてみれば堅調で安定していた。現在、製粉協会において会長の仕事をしているが、製粉業界全体をみても大きな問題はない。食料安全保障の観点から、国内産小麦の増産や輸出との連携を図るといったことに注力している。食料システム法、物流効率化法など法令への対応も行っており、特に、ドライバーの荷待ち時間への課題に対応していく。改めて、当社のことを振り返れば、小麦粉製品の消費も拡大し、安定した年だったといえる。

## — 課題はあったか

第 2 四半期までの決算をみると、数量はそこそこあり利益は確保できたものの、消費者の節約志向は継続しており、特に、家庭用は値上げをする

売れ行きに響くという現象もみられた。全体をみると堅調ではあるが、家庭用や海外など個々には課題が多いと思っている。

## — 将来に向けた投資に力を入れてきた

ユタ製粉社の製粉製造ライン

## 中期計画終了後のステップを考え、次の成長につなげていく

が本格稼働し、知多工場は稼働が間近、4 月に連結化した畑中食品では冷凍食品工場を建設中だ。一方、建築コストが上がっていることで、投資額も上がっている。適正価格での販売を行うことで経済の好循環を生み出すことは必須であり、利益が出ないと社員の給料も上げられない。実質賃金がマイナスとなっている状況を回復していかねければならない。マーケティング集団「刀」との取り組みなど、これまで種まきしてきたものが形になったのが 2025 年。これからは刈り取る時期に入っ

いく。

## — 各事業はどうだったか

製粉事業は、輸入小麦の政府売渡価格が下がるなか、利益目標が確保できたので、かなりの高得点。一方、食品事業のなかでもパスタは波が荒れていた。

米高騰の影響がもたらした出荷は増えたものの休売した商品もあり、需給に翻弄された。売れすぎるのも痛しかゆしたが、店頭の商品を空っぽにするわけにはいかないので、在庫をためて下期からは安定供給できるようにしたい。冷凍食品は、少し苦労した。順調に伸びているけれど、消費者が価格に敏感になっていることもあり、値上げすると数量が減ってしまう。節約志向で難しい面はあるが、収益面の改善に期待したい。

## — 中食は

国内ではコンビニエンススト

アの数が増えないなか、節約志向の影響を受けており、なかなか売りにくい状況になっている。しかも、野菜などの原材料コストが上がっており、冷食・中食は苦労したが、全体的には健闘したと思う。

## — 知多工場の竣工が控えている

知多工場が稼働すると償却費も増えることになるので全体でカバーしていく。更地で一から工場を立ち上げるのは 40 年ぶりであり、工場建設をされる方や建設会社とのコミュニケーションを図りながら、年末から試運

転に入っている。新工場の建設時こそ、最新鋭の技術を入れるまたとない機会であり、I T 制御系など工場の状況の見える化を図っている。臨海工場であり、知多埠頭サイロからダイレクトに原料を搬入できることや、省人化が図れることなどメリットも多い。安全面では地震への対応も行い、A I ロボットを活用することで限りなく人のいない状態での運搬など、安全・安心な製品を安定的に届けるための工夫がなされている。

## — 2026 年の意気込みを

中期目標の最終年度となり、

目標を達成できるようあらゆる努力をしていく。知多工場を安定的に稼働させ、可能な限り早く、閉鎖する名古屋工場と大阪工場の生産を知多工場に移転させたい。償却費はかかるが、安定的に稼働させて投資を回収していく。製粉工場は、常に更新させていかねばならず、竣工前ではあるが早くも次のステップも考えている。海外の工場を含め、安定的稼働につなげていく。ユタ製粉社、知多工場ともに 25 年度につくったこともあり、26 年には利益を上げていきたい。26 年度末には畑中食品に冷凍食品新工場が竣工する。時間が経った工場もあるけれど、これらの工場の更新も続けていく。

社長に就任してから、どうやったら当社を成長させるか考えてきた。次の成長につなげていくための足場づくりをしていく。P B R を上げていく努力をする。ユタ製粉社や知多工場には設備の増設余地もあるので、設備投資や将来の拡張も検討していく。

部長以上を除く社員との面談を順次進めている。健康で働きたいのある会社にして欲しいと思っている。社長として尽力するので、社員もいい仕事をするために、スキルを磨いてほしい。